

# 1 学年 2 組 算数科学習指導案

## 1 単元 たすのかな ひくのかな

### 2 目標

- (1) なかよしタイムの情景図を見て、進んで文章題を考えたり、問題を作ったりする。
- (2) キーワードとなる言葉に着目して、たし算やひき算の式や問題を考えることができる。
- (3) 文章問題に合った式を立て、正しく計算をすることができる。
- (4) たし算やひき算を用いるのはどのようなときか、理解することができる。

### 3 構想

#### (1) 単元について

これまでに子供たちは、文章題について、たし算では増加場面や合併場面を学習し、ひき算では求残場面や求差場面を学習してきた。その中で、たし算やひき算が適切に利用できるよう、文章中の「みんなで」、「ふえると」、「ちがいは」、「どちらが」などのキーワードに着目をして、演算決定の手がかりとすることを学んできた。また、絵や文から式や答えを求めだけでなく、式から話を作る活動も取り入れて、たし算やひき算の理解を深められるようにしてきた。

本単元は、たし算・ひき算のまとめの学習である。情景図がお話風に工夫されており、子供たちの興味・関心が自然と高まり、取り組みやすくなっている。そして、文章題を考える活動を通して、たし算やひき算が用いられる場面の理解をより深めたり、問題作りを通して、たし算・ひき算を用いる力をさらに伸ばしたりすることができると思う。さらに、この学習を通して、子供たちは具体的な生活の場面で、適切にたし算やひき算を使い分け、活用することができるようになると思われる。しかし、工夫された情景図の文章題には、キーワードがなかったり、たし算とひき算が混ざっていたりするため、初めて問題を見た児童の中には抵抗を持つ子もいるであろう。そこで、情景図を児童の実態に合わせて工夫したり、思考段階でいくつかの教師支援を行ったりすることで、楽しく意欲的に学習に取り組めるようにしたいと考える。そして、情景図から児童が作った問題をお互いに解き合うことで、文章題に親しみをもち、文章題に対する抵抗を少しでも取り除きたいと考える。

#### (2) 児童の実態と課題について

算数に関するアンケートを行ったところ、算数の学習が「好き・どちらかといえば好き」と答えた児童は8割いた。その理由としては、「計算が得意だから」、「問題が楽しいから」が多かった。本単元で学習する文章題にも多くの児童が「問題が解けると嬉しいから好き」と、問題が解けることへの成就感を味わっているようである。逆に「どちらかといえば嫌い・嫌い」と答えた2割の児童は、その理由を「難しいから」としている。計算に時間がかかったり、問題の意味をなかなか理解できなかつたりする児童である。中には、基本的な生活習慣が身につけていないために、話が聞けなかつたり、集中して問題が解けなかつたりする児童もいる。これが、文章題になると、「どちらかといえば嫌い・嫌い」とする児童が、3割以上に増えてしまう。「読んでも意味がわからない」と文章内容をイメージできない児童、たし算の学習をしたばかりなのでたし算にしたり、文章題に出てきた数字をただ順番に並べて式を作ったりして「答えがあっているか自信がない」という児童である。

そこで、本単元では、児童が教科書に載っている挿絵に興味を持っていることから、子供たちの顔写真が載っている「1の2なかよしタイム」の拡大情景図を用意することで、より一層楽しく主体的に授業ができればと考える。また、本単元は、加法や減法のまとめとなっているため、個人差が大きく、演算決定でつまづく児童が多いかと考える。文章の意味が分からない、答えに自信がないといった児童の問題を解決するために、ワークシートを用いるようにしたい。ワークシートに加法・減法の選択、演算決定の理由を書かせることで、なぜたし算やひき算になったのかなど思考段階を大切にしていきたいと考える。そうすることで、自分の考えを明確にし、自信

を持って立式を行ったり、前向きに発表にも取り組んだりできると考える。そのためにも、演算決定の判断となるキーワードの確認を忘れずに行っていきたい。

(3) 指導の手だて

- ・楽しんで文章題を解いたり、作ったりするために、なかよしタイムの遊びの様子を拡大したものを情景図として提示する。
- ・主体的な判断によって演算決定ができるようにするために、キーワードの確認をする。
- ・自分の考えをまとめながら、文章問題に合った演算決定や立式を行ったり、文章題を作ったりするために、ワークシートを活用する。

4 学習計画 (3時間)

学 習 課 題	学 習 内 容	時 間	備 考
1ねん2くみ「なかよしタイム」もんだいのしきをかんがえよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ なかよしタイムの情景図を見て、気付いたことを発表する。</li> <li>・ ワークシートに演算決定をした理由を書き、立式を行う。</li> <li>・ 問題を読んで、キーワードを元に演算決定・立式を行う。</li> <li>・ 問題を解く。</li> </ul>	1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ なかよしタイムの情景図</li> <li>・ キーワード</li> <li>・ ワークシート</li> <li>・ 補助プリント</li> </ul>
1ねん2くみ「なかよしタイム」のえをみて、いろいろなもんだいをつくろう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ キーワードの確認をする。</li> <li>・ なかよしタイムの情景図を見て、問題作りをする。</li> <li>・ ワークシートの表に問題を、裏に式と答えを書く。</li> <li>・ 作った問題を発表する。</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ なかよしタイムの情景図</li> <li>・ キーワード</li> <li>・ ワークシート</li> <li>・ 問題カード</li> </ul>
ともだちのつくったもんだいをけいさんしてみよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の作った問題を学習班で発表し、解き合う。</li> <li>・ 教科書の問題を解く。</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ なかよしタイムの情景図</li> </ul>

5 本時の学習指導

(4) 目 標

- ① なかよしタイムの情景図を見て気付いたことを発表したり、進んで文章問題に取り組んだりしようとする。
- ② ワークシートを活用したり、キーワードとなる言葉を見つけたりしながら、たし算やひき算の式を考えることができる。
- ③ たし算やひき算を用いるのはどのようなときか理解することができる。

(5) 本時の手だて

- ・ 楽しみながら、意欲的に文章題を解くために、なかよしタイムの遊びの様子を情景図として提示する。
- ・ 自分なりの表現で、自信を持って文章問題に合った演算決定の理由を伝えたり、立式を行ったりするために、ワークシートを用意する。
- ・ 主体的な判断ができるように、演算決定の根拠となるキーワード(あわせて、どちらが・・・)の確認をする。

(3) 展開

時間	児童の活動	教師支援
10  1	<p>1 なかよしタイムの情景図をみて、気が付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドッジボールをしているよ。</li> <li>・一輪車で遊んでいる子もいるよ。</li> <li>・ブランコで遊んでいる子が5人いるよ。</li> </ul> <p>2 本時の学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">1ねん2くみ「なかよしタイム」もんだいの しきを かんがえよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>意欲的に活動するために、なかよしタイムの情景図を提示する。</u></li> <li>・子供たちの気付きを大切にするために、発表に言葉がけをしたり、数を数えてみたりする。</li> </ul>
10  8	<p>3 問題①を読んで、ワークシートに演算決定をした理由を考えて書き、立式を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>問題①</p> <p>あかぐみ8人、白ぐみ7人に わかれて ころがしドッジボールを しています。 ドッジボールを しているのは、なん 人ですか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たし算…ドッジボールをしている数を答えないといけないから、たし算になる。 …「ぜんぶで」という、言葉がないけど、本当は入る。 …絵を見ると赤組は8人、白組は7人いるから、たし算になる。</li> </ul> <p>4 自分の考えを発表したり、友達の意見を聞いたりしながら、答え合わせをする。</p> <p>式 <math>8 + 7 = 15</math>      こたえ 15人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>自分の意見を持ったり、考えをまとめたりするために、ワークシートを活用するようにする。</u></li> <li>・ワークシートには、<u>加法なのか、減法なのかの選択だけでなく、演算決定の理由も書くことで、自信を持って取り組んだり、発表したりできるようにする。</u></li> <li>・問題を考えやすくするために、なかよしタイムの情景図を配付する。</li> <li>・抽象的なレベルで考えられない児童のために、数図ブロックを使ったり問題文を読み取ったりするためのプリントを用意する。</li> <li>・自分の考えを発表できたことを褒める。</li> <li>・<u>加法なのか減法なのかを判断するキーワードが児童から出てきたら、再度確認をする。</u> 加法…みんなで、あわせて、ぜんぶで、ふえた、もらった…</li> <li>・間違えた児童を確認することで、問題②に意欲的に取り組めるようにする。</li> <li>・<u>問題②の学習に取り組みやすくするために減法のキーワードについても学習するようにする。</u> 減法…のこりは、ちがいは、かえった、出ていった、どちらがおおい…</li> </ul>
10	<p>5 問題②を読んで、ワークシートに演算決定をした理由を考えて書き、立式を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>問題②</p> <p>一りん車で あそんでいる こが9人、 ブランコであそんでいる こが5人います。 あわせて なん人いますか。 どちらが なん人おおいですか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題①とは異なり、加法・減法の二つの式を作らないといけないことを意識させるため、ワークシートを1枚分だけ配布する。</li> <li>・ワークシートには、<u>加法なのか、減法なのかの選択だけでなく、演算決定の理由も書くことで、自信を持って取り組んだり、発表したりできるようにする。</u></li> <li>・演算決定の根拠となるキーワードに着目し</li> </ul>

5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あわせて」なので、たし算になる。</li> <li>・「どちらがおおい」なので、ひき算になる。</li> </ul> <p>6 自分の考えを发表或し、友達の意見を聞いたりしながら、答え合わせをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・たし算 <math>9 + 5 = 14</math>                      答え14人</li> <li>・ひき算 <math>9 - 5 = 4</math> 答え ーりん車のほうが4人おおい</li> </ul>	<p>ながら机間指導をすることで、演算決定の理由や式が書けるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを發表できたことを褒める。</li> <li>・間違えた児童に対しては、確認をすることで、次時に意欲的に取り組めるようにする。</li> </ul>
1	<p>7 次時は、なかよしタイムの情景図を見て、いろいろな問題を作ることを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がいる遊びの問題が作れると楽しいことを伝え、次時の意欲付けをする。</li> </ul>

(4) 評価

- ① 情景図を見て、楽しみながら发表或し、進んで文章問題に取り組んだりすることができたか。 (活動1、3、5より)
- ② ワークシートを活用したり、キーワードとなる言葉を見つけたりしながら、たし算やひき算の式を考え、正しく計算することができたか。(活動3、4、5、6より)
- ③ 友達の意見を聞いたり、考えたりしながら、たし算やひき算を用いるのはどのようなときか理解することができたか。 (活動4、6より)